

情報メディア学部

情報メディア学部情報メディア学科では、進展する情報化社会の中で必要不可欠な存在となっているICT（情報通信）基盤技術分野、この基盤の上で動作する多種多様なシステムの構築、およびインターネット上で社会が共有すべきデジタルコンテンツの創造と制作に関する分野の専門的な知識と技術を学修します。幅広い分野を体系的に学べるように、デザインとテクノロジーの二つの専攻を設置しています。

デザイン専攻では、映像、動画像、画像、音声などで表現されたデジタルコンテンツを制作するのに必要な知識、手法、技術を習得します。

テクノロジー専攻では、映像、動画像、音声などのデジタルコンテンツを体系的にコンピュータに格納し、それらを必要に応じて高速に検索・加工するための知識と技術、およびこのようなコンテンツをインターネット上で共有するために必要な技術を習得します。

上記の学習目標を実現するために、情報メディア学部のカリキュラムは下記の特徴を備えています。

- (a) 授業科目には、教養科目と専門科目があります。
- (b) 各専攻のカリキュラムはそれぞれの目標を達成するために必要な科目体系で構成されています。学びたい専門領域に対応した履修モデルである領域を設定しています。
- (c) 4年間を通して、少人数のゼミナール形式科目や講義を配置し、コミュニケーション力を伸ばすこと、個性と能力に応じたスキルアップと研究活動に取り組むことを目指しています。

選択科目が多いため、履修科目に迷うこともあると思います。スタートアッププログラムなどのガイダンスには必ず出席して説明を聞いてください。

単
位
制
度
授

業
カ
リ
キ
ュ
ラ
ム
履
修
登
録
成
試
験
お
よ
び
進
級
卒

業
教
職
課
程
留
意
の
事
他
項
の
履
修
モ
デ
ル
学
部
教
育
課
程
履
修
モ
デ
ル
の
要
要
付
各
種
規
程
録
・
履
修
課
程
の
要
要
情
報

教養教育の概要

1. 教養教育で学ぶこと

大学教育の目的は、専門分野に関する知識や技術を修得することにとどまりません。社会の変化が加速し、価値観や課題が複雑化する現代において、大学には、専門性を基盤としながらも、自ら考え、状況を判断し、責任ある行動をとることのできる人材を育成する役割が求められています。

本学が教養教育を重視するのは、そのような人材育成を実現するためです。教養教育は、特定の専門分野に限定されない視点を養い、物事を多角的かつ論理的に捉える力を育成します。こうした力は、専門教育の前提となるだけでなく、専門分野の学修をより深く理解し、社会の中で応用していくための重要な基盤となります。

本学の教養教育では、次に示す能力の育成を重視しています。

- ・ 批判的思考
- ・ 道徳的・論理的推論
- ・ 歴史的・心理的・社会学的視点
- ・ 異文化認識
- ・ 数的処理能力
- ・ リテラシー
- ・ 問題解決能力
- ・ コミュニケーション能力



これらの能力は、それぞれが独立して存在するものではなく、相互に関連し合いながら発揮されます。そのため、教養教育科目には、特定の能力の基礎を体系的に養う科目と、複数の能力を横断的に育成する科目が設けられています。学生の皆さんには、こうした科目を通じて、自身の思考の枠を広げ、専門分野の学修に必要な判断力や表現力を段階的に身につけてほしいと考えています。

また、教養教育は、知識を蓄積すること自体を目的とするものではありません。多様な価値観や背景を持つ人々と向き合い、協働する過程の中で、得た知識や考え方をどのように活用するかを考える学びでもあります。教養教育で培われる視点や判断力は、専門分野の枠を超えた課題に直面した際にも、冷静で柔軟な対応を可能にする力となります。

本学の教養教育は、専門教育と相互に補完し合いながら、学生一人ひとりの学びを支える重要な柱として位置づけられています。教養教育を通じて得た力を、専門分野の学修に生かすとともに、将来の社会的・職業的活動へと着実につなげていくことを期待しています。

単
位
制
度
授

業
カ
リ
キ
ュ
ラ
ム

履
修
登
録

成
試
験
お
よ
び
績
び
進

級
卒

業
教
職
課
程

留
意
の
事
他
項
の
履
修
モ
デ
ル
各
種
規
程
・
履
修
課
程
の
概
要
・
履
修
課
程
の
要
項
・
履
修
課
程
の
履
修
要
項
・
履
修
課
程
の
履
修
要
項
・
履
修
課
程
の
履
修
要
項

2. 教養教育の目的と目標

北海道情報大学の教養教育は、「情報社会で価値ある情報を見極める能力を高め、国際的な視野と感覚をもった人材の育成」を目的として、特色ある教養教育を行っています。みなさんが目指す人材像とそのため獲得してもらいたい能力(コンピテンシー)を表1にまとめました。表2に示すように、この人材像とコンピテンシーは、北海道情報大学のディプロマ・ポリシーと関連付けられています。コンピテンシーのA, Bは、クリティカルシンキングの養成, C, Dはコミュニケーション力の養成にかかわるものです。これらを目標とし、3つの生活圏の難問を解決する力を身につけ、生涯にわたって主体的に学ぶ力を培ってください。

表1 教養教育の人材像とコンピテンシー

人材像	
(a)	物事を幅広い視野からとらえ、論理的思考力を備えた人材
(b)	情報社会において必要とされる豊かな自己表現力を備えた人材
(c)	異文化を理解し、国際感覚にすぐれた人材
(d)	市民としての倫理観と自覚をもち、社会に貢献できる人材
(e)	学ぶ意義を理解できる人材
教養教育のコンピテンシー	
A	学問の方法と論理的思考力を身に付け、問題解決に生かすことができる。
B	得られた情報を批判的に分析し、自己の考えを構築・表現することができる。
C	人類の歴史や文化の多様性を認め、その担い手としての自覚をもつことができる。
D	様々な意見をもつ人々とのコミュニケーションの重要性を自覚し、社会生活への展望をもつことができる。
E	クリティカルシンキング（批判的思考）により、主体的に学びを深めることができる

表2 教養教育の人材像とコンピテンシー

教養教育の コンピテンシー	北海道情報大学のディプロマ・ポリシー					
	①	②	③	④	⑤	⑥
A						●
B						●
C			●			
D				●		
E	●					

北海道情報大学のディプロマ・ポリシー	
①	生涯にわたって自ら主体的に学ぶ力
②	IT社会に役立つ高度な情報技術と専門知識
③	国際感覚やモラルなど豊かな人間性
④	コミュニケーションとプレゼンテーション能力
⑤	自ら問題を見つけ出し、その解決のために情報技術を活用し、自身で工夫できる問題発見・解決能力
⑥	知識のみではなく生きるための知恵

単
位
制
度
授

業
カ
リ
キ
ュ
ラ
ム
履
修
登
録
成
試
験
お
よ
び
績
び
進

級
卒

業
教
職
課
程
留
そ
意
の
事
他
項
の
履
修
モ
デ
ル
教
育
課
程
の
要
要
各
種
規
程
録
・
履
修
課
程
の
要
要
情
報

